

# 地域振興におけるツーリズム推進のための方策

——地域経済に関わる論点——

Policy for Tourism in Regional Development : Issues in Relation to Regional Economy

森 信 之\*

MORI Nobuyuki

This paper considers characteristics of policy for tourism in regional development and its effects with a focus on issues in relation to regional economy. On the basis of previous studies, it shows the importance of fundamental aspects of the policy, which are related to integration with policy for regional economic development, and different characteristics and functions in terms of its effects focusing on regional economy, and the spatial flexibility of actors' economic activities. With regard to characteristics of policy for regional development, it suggests different orientations of the policy in terms of its effects from a regional perspective. Finally, it considers the policy for tourism in regional development and its effects, especially with respect to two important aspects, which concern the linkage between the policy for tourism and the implementation of the policy for a comprehensive regional development based on regional resources, and the functions for tourism promotion and regional economic development, and their networks.

キーワード：地域振興 (regional development), ツーリズム (tourism), 方策 (policy), 地域経済 (regional economy)

## 1. はじめに

ツーリズムが地域振興にもたらす効果については、軸となる効果を中心に、複合的な効果を包括的に生み出し、高めるための方策を具体化し、推進することが重要になると考えられる。そうした方策は、実現されるべき地域振興のあり方、それに効果をもたらすツーリズムの特性に応じた多様な側面でもとらえられる。地域振興におけるツーリズム推進では、それらを基に地域特性に適合したより有効な方策を構築、具体化し、推進に結びつけることが必要になるといえる。

ツーリズム推進のための方策について、地域振興を促す効果を高めるための政策推進とツーリズムとの関わり

に着目すると、森（2013）で示した、第1に、政策体系、政策展開のプロセスに関わる地域振興を促す効果を高めることが可能な方策、第2に、地域問題の解決、包括的な効果が軸となる地域的關係に関わる地域的に適切な効果として具体化されることを可能とする方策という2つの論点を深化させることが重視される。

第1の論点については、政策推進において、地域経済、地域における環境、地域特性に応じたツーリズム推進といった重視すべき側面相互の關係が整合し、望ましい方向へ向けるための軸となる機能が焦点になるといえる（森 2013）。特に、地域振興における地域経済を軸とする効果に関しては、地域経済、地域特性に応じたツーリズム推進に関する側面を重視し、ツーリズム推進を軸とし、政策推進を含めたより包括的な方策の具体化、

\*大阪観光学大学観光学部

推進に結びつけることが必要であり、そのためには、ツーリズム推進のための方策に関係づけた地域経済に関わる論点を提示し、深化させることが有効になると考えられる。

以上の点、また、地域振興におけるツーリズム推進と空間との関わり（森 2009）、ツーリズムを中心とする地域振興に関わる地域的關係（森 2012）をふまえ、本稿では、まず、地域振興におけるツーリズム推進のための方策に関係づけた地域経済に関わる論点について、方策、効果の基盤となる側面を重視しつつ提示し、考察する。次いで、地域振興のための方策の特性について、効果のあり方に基づく方策の異なる指向性に注目するとともに、ツーリズム推進のための方策がもたらす効果のあり方、それに関わる方策、取組みについて考察を進める。

## 2. ツーリズム推進のための方策と地域経済

本稿における地域経済に関わる論点については、地域振興の対象となる地域に関して、特に具体化、推進すべき方策において焦点となる地域の特性を明確にすることが不可欠になると考えられる。これは、地域振興においては、先の第2の論点（森 2013）で示した地域問題の解決が求められる地域特性への着目が重視されるが、地域振興の対象となる地域に視点を置いた地域的關係に関して提示される特性<sup>1)</sup>をふまえ、焦点となる地域の特性として、地域振興の推進、実現のための効果をもち、ツーリズム推進のための方策の具体化、推進に適合した地域としてのあり方を明示することが有効であることに基づいている。

こうした点、また、地域経済については、Feser (2014) が示す実践的、フレキシブル、実験的、根拠に基づく、実行に焦点があるといった新たな産業政策における地域経済発展へのアプローチの必要性などをふまえ<sup>2)</sup>、焦点となる地域において、ツーリズム推進を促す作用、それが地域振興への効果を高めることを可能にする基盤となる側面に関して次の2つの論点が提示される。

第1は、地域内、あるいは、地域外との関係において、地域振興におけるツーリズム推進が、地域経済の基盤の構築、強化、再生のための、あるいは、地域経済振興を柱とする方策、取組みと連携、一体化しつつ作用するための基盤としての機能をもつ仕組みの重要性である。

この点については、焦点となる地域において、ツーリズム推進を促す作用自体、また、それへの指向性、それとの連関といった点での関わりが、個別の地域から構成される広域的な範囲に及ぶこと、あるいは、地域内において異なる特性をもつことによる多様性に対して、特に地域経済を軸とする柔軟性を備えた機能をもつ必要があることが重視される。

まず、ツーリズム推進を促す作用、それとの関わりについて、焦点となる地域における生産や消費、雇用、あるいは、産業間・業種間、企業間・事業所間の連関関係などの地域経済に関する重要な側面に関して全域的な観点からとらえる場合には、地域的な一体化、統合化への指向性を基に、焦点となる地域内における関係、連携、あるいは、地域外との関係、連携において核となるとともに、焦点となる地域において全域的に作用する機能をもつことによって、ツーリズム推進による地域経済を軸とする地域振興への効果を高めることが重要となる。そのため、ここでのツーリズム推進のための方策、取組みにおいては、焦点となる地域を基本として、先の地域経済の基盤、地域経済振興に関わる方策、取組みと直結し、一体的、統合的に各々の効果、あるいは、それらによる相乗効果を全域的に生み出し、高めるための仕組みを重視することが不可欠となる。

次に、ツーリズム推進を促す作用、それとの関わりが、地域経済に関する重要な側面に関して、焦点となる地域内の特定の一体的な範囲を核とし、それと地域内における関係、あるいは、地域外との関係を形成する場合には、そうした範囲を構成する地域、そこにおける主体と、焦点となる地域内のそうした範囲に属さない地域、そこにおける主体との関係、連携、あるいは、地域外との関係、連携を重視した機能をもつことが重要となる。ここでは、ツーリズム推進による地域経済を軸とする地域振興への効果を高めるために、そうした関係、連携のあり方を明確にすることが不可欠となる。核となる特定の一体的な範囲自体に関しては、ツーリズム推進を焦点として、相対的に狭域的な空間スケールでとらえられる地域経済のあり方を重視する必要がある、地域経済に関する重要な側面、特に、企業、事業所の立地、集積、あるいは、それらがもつ機能、産業間・業種間、企業間・事業所間の連関関係などに基づき、地域経済を軸とする地域振興への効果を高めるための中心的な機能をもつことが焦点になるといえる。また、地域内において、あるいは、地域外との間で、そうした機能との多様な関係が形成されることになるが、それらとの連携を図る際に

は、地域振興への効果を高めるための軸となる機能をもった関係を見出すこと、また、ツーリズム推進の具体的内容と一体化させながらそれらを明確にし、ツーリズム推進のための方策、取組みの具体化、推進に結びつけることが重視される。

さらに、ツーリズム推進を促す作用、それとの関わりが、地域経済に関する重要な側面に関して、焦点となる地域内において分散的に存在し、各々が地域内外に関わる関係を形成する場合には、そうした作用やそれとの関わりをもつ地域、そこにおける主体ごとにとらえられる関係、連携を重視した機能をもつことが重要となる。ここでは、焦点となる地域内において分散的に存在する、そうした機能をもつべき各地域に適合した地域間、主体間の関係、連携、また、焦点となる地域外との関係、連携のあり方を明確にする必要がある。地域経済に関する重要な側面に関しては、そうした機能をもつべき地域間、焦点となる地域内、また、地域外との間における関係、連携ごとに異なった内容を重視することが必要になると考えられる。そのため、ツーリズム推進においては、ツーリズムの具体的内容、推進すべき方策をそれらに応じてより多様化させることを必要とすることになる。地域経済を軸とする地域振興への効果に関しては、そこでの軸および効果の多様化を視野に入れることが不可欠となり、それと結びついたツーリズム推進のための方策、取組みの具体化、推進を促すことが重視される。また、焦点となる地域の全域的な効果のあり方を明確にし、それと地域内における異なった効果の内容とを適切に整合させることが不可欠になるといえる。

第 2 は、地域振興においてツーリズム推進を促す作用に関して、地域経済を焦点とするツーリズム推進のための方策の効果を高めるための異なった特性、機能をもった軸が存在し、各々に関わる地域経済を担う主体の活動、行動が地域内外において空間的により柔軟に展開することを促すための基盤となる仕組みの重要性である。

この点については、地域振興、ツーリズム推進のための方策の効果を高めるうえで中核となる軸、それに関わる主体の機能などに関わる方策、空間的な仕組み、システムへの着目(森 2009)をふまえることによって、地域経済を焦点とした場合のそうした軸のあり方、内容、それらと地域との関わりに関して、実践性をより高めつつそれらの具体化を図ることが重視される。

地域振興とツーリズム推進とが一体化し、統合された関係における中心的機能を特定の地域に集約させること(森 2009)については、地域経済を焦点とすることに

よってそうした特性をより多様化させることになる。この点については、地域経済を軸とする地域振興とツーリズム推進における中心的機能が、地域経済と推進されるツーリズムとの関係を深化させる方向に作用することによって、集約される特定の地域の重要性が一層増すことになると考えられる。ツーリズムを直接担う企業、事業所の立地、集積、ツーリストによる消費、企業間・事業所間の連関関係などにおけるそうした特定の地域の重要性の増大は、それら各々における核としての機能をもつ特性をより強く示すことになり、ツーリズム推進においては、それを中心に形成される機能的関係に適合したツーリズムの具体的内容が明確にされる必要がある。その際には、ツーリズム推進のための方策において、推進されるツーリズムと地域内外の地域資源との関係、関わりをもつ主体の活動、行動の具体的内容およびそれらの相互関係、異なった特性をもつツーリズムの推進体制、推進方法およびそれらの相互関係といったツーリズム推進における不可欠な側面との関わりに関して、ここでの作用の深化が空間的な観点から効果を高めることを可能とする仕組みが焦点になるといえる。

また、地域振興とツーリズム推進との関わりに関して、多様な軸から構成される多元的な関係としてとらえられ、担うべき機能を各々が必要とする地域的条件に適合させ、それらを連携させることを可能とする配置にすること(森 2009)については、複数の軸、それらが示す特性、それらの関わりにおける複数の核、担うべき機能と地域的条件との関係、それらの連携に関して、地域経済を焦点とすることに適合した内容をもつ方策としてとらえられ、ここでは、特に、地域振興への効果を高めるための空間的側面を重視することが重要になる。

この点については、軸が複数存在することによる相乗効果、異なった特性を示す軸の相互関係からもたらされる効果、そうした効果を高めるために各々の核が担うべき機能が具体化される必要がある。その際には、経済活動としてのツーリズムを構成する不可欠な側面に基づき、地域振興において異なった作用を促す軸が示す特性を見出すことが有効になると考えられる。ここでは、ツーリズムを担う異なった経済活動において、そうした効果に関わる主体、主体間の関係とツーリズムが推進され、展開される空間との関係から、異なった特性ごとのツーリズム推進、これに応じて、あるいは、主体の特性に基づいて効果的な推進が可能な主体形成、そこで核となる空間、拠点がもつべき機能の明確化を促し、それらと適合可能な地域的条件をふまえながら、地域振興への



効果を高めるための、それらの地域内外に関わる連携を可能とする方策の具体化が重要になるといえる。

### 3. 地域振興のための方策としての特性

ツーリズム推進のための方策は、より広範な地域振興のための方策としての特性をもつことになるが、そうした方策の効果を高めるためには、先の地域経済に関わる第1の論点において重視した焦点となる地域の広域性、多様性をふまえた方策としてのあり方を具体化することが有効であると考えられる。そのため、焦点となる地域において、地域経済を軸とする地域振興のための方策とツーリズム推進のための方策との関わりをとらえるうえで重視すべき点を明確にする必要がある。

これについては、地域経済を軸とする地域振興のための方策に関して、ツーリズム推進が、焦点となる地域において、グローバルな関わりを含む広域的範囲のなかで一体的な効果をもたらすこと、あるいは、焦点となる地域を構成する多様な特性をもつ地域、それらの相互関係

が各々の効果をもたらすことに基づき、効果のあり方に基づく方策の異なった指向性がとらえられることが示唆される。

こうした点に関して、森（2004, 2005, 2006, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2014）で取り上げている三重県東紀州地域についてみると、当該地域を区域とする地域再生計画が2012年に認定され、それに基づく取組みが行われている（本計画の内容の一部を表-1に示している）。本計画では、雇用の創造が大きな課題となっており、第3次産業、特に観光については、不利な交通条件もあり、これまでは伸び悩んできたこと、しかし、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、熊野古道が注目されるようになったことを契機として、地域資源を活用した観光資源の開発など観光サービス関連産業の振興への取組みが行われていること、これまでの取組みとしては、ハード面では2007年に三重県立熊野古道センターが尾鷲市に開設され、その隣接地に「夢古道おわせ」が、また、熊野市では2009年に「里創人 熊野倶楽部」がオープンし、地域の集客交流

表-1 地域再生計画「東紀州における地域の協創に基づいた、新たな観光資源の開発による雇用機会の増大計画」

<p>1. 地域再生計画の作成主体の名称 三重県、尾鷲市、熊野市、北牟婁郡紀北町、南牟婁郡御浜町、南牟婁郡紀宝町</p> <p>2. 地域再生計画の目標 高速道路等の延伸、伊勢神宮の式年遷宮、世界遺産登録10周年を千載一隅のチャンスと捉え、豊かな地域資源を活用した新たな観光サービスメニューの開発と新たな販路開拓を行い、観光サービス関連産業を、地域経済を牽引する産業のひとつとして確立していく。</p> <p>3. 地域再生を図るために行う事業 ・法第5章の特別の措置を適用して行う事業 ・該当なし ・その他の事業 ・地域再生基本方針に基づく支援措置による取り組み ・支援措置の名称と番号：実践型地域雇用創造事業【B0906】、実施主体：東紀州地域雇用創造推進協議会（構成：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町、尾鷲商工会議所、熊野商工会議所、紀北町商工会、御浜町商工会、紀宝町商工会、東紀州観光まちづくり公社、三重県） ①特産品・名物料理開発セミナー ②東紀州高い塾 ③外国人おもてなしセミナー ④創業セミナー ⑤観光集客分野における顧客満足度アップセミナー ⑥体験インストラクター養成講座 ⑦情報発信パワーアップセミナー ⑧東紀州うみやま・しごと合同就職説明会事業 ⑨東紀州しごと出会い事業 ⑩東紀州まるごと観光・物産発信事業 ⑪東紀州における観光と食の新商品開発事業 ⑫観光体験プログラム・着地型観光商品開発事業 ・地域再生基本方針に基づく支援措置によらない取り組み ①輪内地区まるごと元気大作戦！（尾鷲市） ②観光地域づくりプラットフォーム支援事業（三重県） ③地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト（熊野市）</p> <p>4. 計画期間 認定日から平成27年3月まで</p> <p>5. 目標の達成状況に係る評価に関する事項 地域再生計画の目標については、参加者や利用者アンケート等による調査を行って状況を把握し各年度の終了後、関係行政機関や有識者等からなる評価委員会により評価や改善すべき事項の検討等を行うこととする。</p>
---

出典：「地域再生計画 東紀州における地域の協創に基づいた、新たな観光資源の開発による雇用機会の増大計画」（三重県・尾鷲市・熊野市・紀北町・御浜町・紀宝町、2012年、<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/dai23nintei/plan/plan4.pdf>、2014年10月15日閲覧）により作成。

注）紀北町商工会と御浜町商工会は、合併により、みえ熊野古道商工会となり、また、東紀州観光まちづくり公社は、東紀州地域振興公社となっている。

拠点が整備されたこと、また、入込客数の推移や観光客の増加の予想などをふまえ、表-1における目標を示している。実施主体は東紀州地域雇用創造推進協議会であり、本計画の作成主体である三重県、各市町とともに、商工会議所、商工会、公社が主体となって当該地域全体に及ぶ取組みに関わっている<sup>3)</sup>。また、「みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金事業」では、地域資源の活用、地域課題の解決を焦点とする支援を行っている。東紀州地域におけるツーリズムに関わる事業に関しては(表-2)、熊野古道をはじめとする地域資源に基づくツーリズムとの関わりが特徴としてとらえられるが、本表には記載していない地域資源を活かした商品の開発や販売、サービスなどの事業、また、「みえ農工商連携推進ファンド助成金事業」を含めて、地域特性、特色ある地域資源を基盤とする地域振興と連動した、あるいは、包括的な地域振興に直結する取組みとしての効果が期待されることになる。

こうした具体的な取組みの内容、また、Haugland et al. (2011) が示すデスティネーションの発展に関する

統合的、多層的な観点、Henriksen and Halkier (2009) が示すステークホルダーのネットワーク、知識のダイナミクスに着目したツーリズム政策における地域的なイノベーション戦略への変化といった方策の統合化、主体、主体間の関係のあり方と地域との関係に関わる論点<sup>4)</sup>をふまえ、まず、グローバルな関わりを含む広域的範囲のなかでの一体的な効果に関しては、その基盤として、推進されるツーリズムにとって不可欠な地域資源、特に、焦点となる地域を越える広域的範囲に関わりをもつ中核的な地域資源の存在が重視される。ツーリズム推進においては、そうした地域資源がもつ特性と地域内における地域的条件との関係を基に、一体的にとらえられる効果を高めるための取組みが重要になるといえる。そこでは、ツーリズム推進に関わる経済的機能が、中核的な地域資源を中心に収斂する方向へと作用し、そうした地域資源に基づく経済効果を生み出し、波及的にそれを高めることを軸とすることになる。そのため、経済的機能を担う主体の活動、行動が、焦点となる地域内だけでなく、グローバルな展開、焦点となる地域外との

表-2 東紀州地域におけるツーリズムに関わる「みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金事業」の助成金交付対象者・内定者など(例)

年度・対象事業	所在地	申請主体	テーマ
2007	紀宝町	個人事業主(熊野川体感塾)	熊野川体験プラン
2008	尾鷲市	くまの体験企画	熊野古道や東紀州の地域資源を活用した持続できるエコツアーや体験事業の企画・実施・ガイドングサービスプラン
2009・地域資源活用型	尾鷲市	特定非営利活動法人 天満浦百人会	お母さんたちが町のシンボルの古民家を復活させ、地域資源を複合的に連携して町全体を元気にする地域資源活用プラン
	熊野市	有限会社赤倉水産	赤倉のフリークライミングルートと昔ながらの風情を活かした田舎の癒し体験民泊事業プラン
	紀北町	個人	紀州の海と山を満喫! 地元の人お薦めの地域資源を使った熊野古道ツアーのおみやげ開発プラン
2010・地域資源活用型	尾鷲市	株式会社熊野古道おわせ	おわせひのき間伐材の利用促進と世界遺産熊野古道を活用した活性化プラン
	熊野市	熊野市観光協会	熊野大花火オフィシャル商品の開発プラン
2011・地域資源活用型	尾鷲市	尾鷲観光物産協会	尾鷲の地域資源を活かした健康増進ツアーをキーとする観光情報発信販売プラン
	熊野市	株式会社エムアンドエムサービス 里創人 熊野倶楽部	電動アシスト付自転車導入プロジェクト“ちゃりお”「時速10キロで巡る聖地熊野」プラン
2012・地域課題解決型	尾鷲市	尾鷲物産株式会社	「魚のまち尾鷲 船でゆく漁業体験・湾内遊覧事業」の開発
	紀北町	株式会社アトリエモーティヴ	地域の空き施設を有効利用した地産地消型「海辺のカフェ」から始まる地域活性化プラン

出典：公益財団法人三重県産業支援センター資料 ([http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H19\\_kadai.pdf](http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H19_kadai.pdf), [http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H20\\_1\\_kadai.pdf](http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H20_1_kadai.pdf), [http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/shigen/H21\\_1\\_shigen.pdf](http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/shigen/H21_1_shigen.pdf), [http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/shigen/H22\\_2\\_shigen.pdf](http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/shigen/H22_2_shigen.pdf), [http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/shigen/H23\\_2\\_shigen.pdf](http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/shigen/H23_2_shigen.pdf), [http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H24\\_1\\_kadai.pdf](http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H24_1_kadai.pdf), [http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H24\\_2\\_kadai.pdf](http://www.miesc.or.jp/pdf/cb-fund/kadai/H24_2_kadai.pdf), 2014年10月15日閲覧)により作成。

連携に結びつくとともに、個々の経済的機能、それらの相互関係、また、推進されるツーリズムの特性に応じた多様な経済的機能、それらを担う主体、施設の適正な立地、配置に基づき、中核的な地域資源の価値、魅力を基盤とする効果を機能、空間双方に関して一体的に高めるための方策としての特性が重視される。

また、地域振興のための方策であることに関しては、地域経済を軸とするそうした効果が焦点となるが、生活、環境などの異なった領域と一体化した方策としての特性に着目することを不可欠とする。そこでは、ツーリズム推進に関わる経済的機能と異なった領域との関係が明確にされることが必要となり、焦点となる地域における異なった領域のあり方に適合させるためのそうした関係の内容が、機能、空間双方に関して具体化されることが重要となる。特に、中核的な地域資源に基づく経済的機能の一体的な作用は、全域および個別の地域における領域のあり方に広範な影響をもたらすことになると考えられるため、ツーリズム推進においては、広範な領域に関わる環境、地域資源の保全、保護、あるいは、利用、活用といったことに関わる多様な関係、そこでもたらされる問題が焦点となり、それらに対する総体としての取組み、また、個々の取組みやそれらの相互関係を重視することが不可欠である。

焦点となる地域を構成する多様な特性をもつ地域、それらの相互関係の各々の効果に関しては、それらの基盤として、そうした地域がもつ固有の地域資源の存在が重視される。ツーリズム推進においては、各々の地域資源がもたらす多様な効果を焦点とする地域外との関係を視野に入れつつ、各々の、あるいは、総体としての効果のあり方を具体化すること、それを基に、強化、創出すべき各地域の特性を明確にすることが必要であり、そのため取組みが重要になるといえる。ここでのツーリズム推進に関わる経済的機能は、異なった固有性をもつ地域資源を基盤とし、各々が地域内、また、地域外との間において、それらを核として形成される異なった関係ごとにとらえられる経済効果を軸とすることになる。この点は、経済的機能を担う活動、行動が、各々の地域資源ごとに異なった特性をもつことを不可欠とすることになる。そのため、それらごとに経済効果をもたらすメカニズム、プロセスを明確にするとともに、そこで柱となる側面と推進されるツーリズムの特性との関係に基づき、機能、空間双方に関して多様な内容をもち、多核的にもたらされる効果を高めるための方策としての特性が重視される必要がある。

また、地域振興のための方策であることに関しては、そうした柱となる側面と推進されるツーリズムの特性との関係において、各地域がもつべき特性が焦点となり、各地域において推進、実現すべき地域振興のあり方と一体化させた方策のための取組みが重要である。特に、ここでの多様な経済効果に関わるツーリズムの特性は、焦点となる地域と地域外との関係と一体化しつつ、各地域、あるいは、それらの相互関係の特性のとらえ方がそれに応じた柔軟性をもつことを必要とし、したがって、機能的、空間的に錯綜した方策、取組みの内容を明確にし、具体化することが不可欠になると考えられる。また、重視すべき地域資源、各地域の特性に適合した経済的機能、経済効果を軸とするそうした方策の構築、そのための取組みのあり方との密接な関わりを重視し、方策、取組みの具体化を図ることが重要になるといえる。

#### 4. ツーリズム推進のための方策とその効果

ツーリズム推進のための方策については、それがもたらす効果のあり方、それに関わる方策、取組みに着目することによって、第1に、多様な空間スケールで関わりをもつ地域資源を基盤とし、焦点となる地域におけるツーリズム推進が包括的な地域振興のための取組みと連動することによる効果の内容を具体化し、そうした効果を生み出し、高めることを重視する側面、第2に、ツーリズム推進を促すための核となる機能をもち、地域経済を軸とする地域振興を先導する拠点性、また、焦点となる地域外との関係を含むそれらの連携がもたらす効果を重視する側面という地域振興とツーリズム推進との関係に基づく方策の効果に関して重視すべき側面がとらえられる。この点は、先の地域振興のための方策の特性において示唆した効果のあり方に基づく方策の異なった指向性との関係を視野に入れつつ具体化を図ることによって、望ましい効果をもたらすための方策、取組みの具体化、推進を促すことにつながると考えられる。

まず、第1の側面におけるツーリズム推進が包括的な地域振興のための取組みと連動することによる効果については、広域的範囲のなかでの一体的な効果との関係に関しては、中核的な地域資源を基盤とする広域的な地域振興のためのツーリズム推進が焦点となる。特にそうした地域資源と結びついた経済活動は、地域振興において柱となる機能を形成することになるが、その際には、ツーリズムを担う産業、企業、事業所を中心に地域に基盤を置いた主体を焦点とする効果、あるいは、焦点となる



地域における全域的な生活や環境といった領域と地域経済との関わりでもたらされる問題の解決に関する効果が重視される。そうした効果を生み出し、高めるためには、広域的に展開されるツーリズム推進と地域的条件に適合した包括的な地域振興との連動の具体的内容を明確にする必要がある。そのため、中核的な地域資源を基盤とし、地域経済を軸とするツーリズム推進に関わる主体の活動、行動、また、機能、施設の立地、配置、土地利用といった側面と包括的な地域振興における異なった領域に関わる取組みとの関係に着目し、そこで重視すべき課題を中心に一体的な効果として望ましいあり方を明確にすることが重要である。

焦点となる地域を構成する多様な特性をもつ地域、それらの相互関係の各々の効果との関係に関しては、固有の特性をもつ地域資源を基盤とし、異なった地域の特性に応じた多様な地域振興のためのツーリズム推進が焦点となる。ここでの経済活動は、異なった地域の特性に適合した機能を必要とし、したがって、それを中心とする地域経済振興を柱とする包括的な地域振興が多彩に展開されることになる。これに基づき、ツーリズム推進は、地域資源の特性に応じた具体的内容をもつことが必要となり、焦点となる地域において推進されるべき異なった特性をもつツーリズム、地域内外との関わりに整合したそれらの連携、軸となるツーリズムを中心とするツーリズム総体として望ましいあり方に関わる主体を焦点とする効果、また、異なった地域の特性に応じた地域振興において、ツーリズム推進が地域経済を軸とする多様な領域との関係からもたらす効果が重視される。こうした効果については、個々の地域資源と地域経済振興との関係とともに、包括的な地域振興との関係を視野に入れることが不可欠であり、地域資源ごとの特性を活かした経済効果を生み出し、高めるためのツーリズム推進を促す取組み、それを担う主体の特性、また、地域資源の特性に基づく包括的な地域振興を促すための取組み、それを担う主体の特性との関係のあり方が具体化される必要がある。

次に、第 2 の側面におけるツーリズム推進を促すための核としての機能をもち、地域経済を軸とする地域振興を先導する拠点性、それらの連携がもたらす効果について、広域的範囲のなかでの一体的な効果との関係に関しては、中核的な地域資源を基盤とする拠点的機能の創出、強化が、焦点となる地域における経済効果を一体的に高めることを軸とする地域振興のためのツーリズム推進が焦点となる。ここでは、焦点となる地域における全

域的な観点からの拠点性の基盤となる中核的機能が不可欠であり、それがもたらす集客に基づく経済効果が重視される。経済効果は地域内の異なった特性に応じたツーリズム推進のための取組みに基づくことになるが、それらは地域外との関係とも結びつけてとらえられる異なった性格をもつ拠点性、集客性をもつことを重視する必要がある。そのため、グローバルな視野のなかでの固有の中核的な地域資源の特性をはじめ、多様な空間スケールに応じたそうした地域資源の特性を基盤とする拠点性、あるいは、それに基づく固有の集客性を明確にすることが、地域経済を軸とする地域振興自体のあり方を具体化し、取組みを推進するために不可欠になるといえる。

焦点となる地域を構成する多様な特性をもつ地域、それらの相互関係の各々の効果との関係に関しては、各々の効果をもたらす地域資源を基盤とし、各々が固有の特性をもつ拠点的機能をもつことによって、個々の拠点的機能だけではなく、それらが連携することに基づく、多様な主体が関わる地域振興のためのツーリズム推進が焦点となる。ここでの拠点性は、空間スケール、各々の機能の特性に応じた多様性、それらに基づく集客性をもつことを不可欠とし、したがって、地域資源を基盤とするそれらのあり方自体を明確にすることが重要である。その際には、各々の拠点性の核となる個々の機能、あるいは、それらの構成、機能間の関係において軸となる側面を見出すことが不可欠となり、それらに適合した多彩な集客性のあり方を具体化することによって、ツーリズム推進のための取組みの効果が結びつけていくことが重視される。また、それらに基づいて形成される各拠点については、経済効果を高めるための個々の拠点ごとの取組みの推進がまず重要となるが、さらに拠点間の連携が相乗効果をもたらすことが不可欠となる。そのためには、地域資源の特性に基づく経済効果を高めるための連携、それに関わる主体のあり方を明確にし、地域間、主体間の連携と関係づけることによって、地域振興におけるツーリズム推進の効果を生み出し、高めるための取組みを具体化することが重視される。

## 5. おわりに

本稿においては、まず、地域振興におけるツーリズム推進のための方策に関係づけた地域経済に関わる論点について、方策、効果の基盤となる側面、仕組みの重要性を提示し、考察した。次いで、地域振興のための方策の特性について、効果のあり方に基づく方策の異なった指

向性がとらえられることを示唆し、各々について考察した。

さらに、ツーリズム推進のための方策とその効果に関して重視すべき側面に着目し、先の効果のあり方に基づく方策の異なった指向性との関係を視野に入れつつ考察を進めた。

今後は、ツーリズム推進による地域経済を軸とする地域振興への効果を高めるためのより有効な方策について、多面的で包括的な効果の具体的内容を重視しつつ、その構築、具体化に結びつけることが課題となる。

#### 【注】

- 1) 第1に、地域資源がもつ地域振興を促す作用が地域全域に及ぶことがもたらす特性、第2に、地域資源が地域における一定の広域的範囲に存在し、地域振興を促す作用がそうした広域的範囲を中心に地域全域に及ぶことがもたらす特性、第3に、地域振興を促す作用をもつ地域資源が局地的に存在し、地域においては地域資源相互の間の関係と地域間との関係とが連動、一体化することがもたらす特性(森 2012)である。
- 2) また、「新地域主義」へのシフトにおける政策、計画とツーリズムとの関わり(Shone and Memon 2008)、都市におけるツーリズムの競争政策における異なった優位性、イノベティブなキャパシティの重要性(Connelly 2007)といったツーリズム政策に直接関わる論点、あるいは、グローバルな視野のもとでの地域政策の動向、展望において重視すべき問題(富樫 2014)などに着目する必要がある。
- 3) 東紀州地域においては、森(2012)で取り上げた「東紀州地域観光圏整備計画」への取組みが行われているが、当計画に関しては、東紀州地域雇用創造推進協議会による「実践型地域雇用創造事業 事業構想要約版」(2012年)の「地域重点分野に係る地域の取組」にも記載されている。
- 4) 雇用については、加藤(2009)が、都市における雇用就業戦略に関して、若年層への積極的雇用政策を中心に検討を行い、施策群の統合、連携によるパッケージ・プログラムとしての再編成の重要性を示している。

#### 【文献】

- 加藤恵正(2009):都市政策としての雇用就業戦略、『都市政策』136:4-18.
- 富樫幸一(2014):ポスト開発主義における地域政策の展望

ーサステナビリティ、不均等、コミュニティー、『地域経済学研究』27:2-16.

- 森信之(2004):地域発展のための地域的条件ーツーリズムと地域経済に基づく論点ー、『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報)3:13-27.
- 森信之(2005):地域変化と計画システムの再構築ー地域経済構造とツーリズムを中心とする考察ー、『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報)4:33-50.
- 森信之(2006):地域振興の構造ー空間とツーリズムに基づく視点ー、『観光研究論集』(大阪観光大学観光学研究所年報)5:113-126.
- 森信之(2008):地域振興のメカニズムと計画、『大阪観光大学紀要』8:47-53.
- 森信之(2009):地域振興におけるツーリズム推進の空間特性、『大阪観光大学紀要』9:33-39.
- 森信之(2010):地域振興とツーリズムに関わる計画推進、『大阪観光大学紀要』10:167-178.
- 森信之(2011):環境保全とツーリズム推進ー地域的視点を中心にー、『大阪観光大学紀要』11:93-100.
- 森信之(2012):地域振興と地域的關係ーツーリズム推進を中心とする考察ー、『大阪観光大学紀要』12:87-94.
- 森信之(2013):地域振興のための政策推進とツーリズム、『大阪観光大学紀要』13:101-108.
- 森信之(2014):環境保全と地域振興ーツーリズムに関わる方策に着目してー、『大阪観光大学紀要』14:91-100.
- Connelly, G. (2007): "Testing governance-a research agenda for exploring urban tourism competitiveness policy: the case of Liverpool 1980-2000", *Tourism Geographies*, 9: 84-114.
- Feser, E. (2014): "Planning local economic development in the emerging world order", *Town Planning Review*, 85: 19-38.
- Haugland, S. A., Ness, H., Grønseth, B. O. and Aarstad, J. (2011): "Development of tourism destinations: an integrated multilevel perspective", *Annals of Tourism Research*, 38: 268-290.
- Henriksen, P. F. and Halkier, H. (2009): "From local promotion towards regional tourism policies: knowledge processes and actor networks in North Jutland, Denmark", *European Planning Studies*, 17: 1445-1462.
- Shone, M. C. and Memon, P. A. (2008): "Tourism, public policy and regional development: a turn from neo-liberalism to the New Regionalism", *Local Economy*, 23: 290-304.